

比翼の束
特別編

矢板の宝
市民の力

矢板の一番の宝物、それは人である。
ここの風土が育んだ人は、
やさしく、純粋で、そして頑固だ。

良く聞く言葉だが

「矢板にはなにもない」

「矢板は面白くない」

などと自分の住むまちを

卑下して言う。

本当にそうだろうか。

恥ずかしさの裏返しではないか。

現状の幸せに甘えてはいないだろうか。

しかし、このまちには、

人を笑顔にし、

人のために尽くし、

人が楽しく暮らせるために

力を尽くしてくれている市民がいる。

なにもないことはない。

矢板市には、

素晴らしい市民の力があふれている。

今号では、そんな市民力の一端を紹介させ

ていただく。

もちろん他にも数えきれないほど、多くの

市民力を日々感じ、感謝している。

私が執筆している「比翼の束」とは

市民と行政を翼に例え、二つを束ねて

まい進する様をイメージした言葉である。

これからも市民の皆さんと力を合わせて、

一緒に羽ばたいていきたい。

遠藤 忠

矢板を守る

～矢板市消防団～



【通常点検表彰者名簿】

○栃木県知事表彰

模範団員表彰 東泉 喜之

○栃木県消防協会会長表彰

功績章 金井 公利

勤続章

| | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--|--|--|--|
| 40年勤続 | 相馬 宗司 | | | | | | | | |
| 30年勤続 | 貝塚 真夫 | | | | | | | | |
| 25年勤続 | 大類 俊昭 | 津久井政邦 | | | | | | | |
| 20年勤続 | 江連 仁 | 笹沼 長生 | 舘脇 一哲 | 松本 泰信 | 町井 賢志 | | | | |
| | 小幡 佳広 | 小川 丈晴 | 森本 忠 | | | | | | |
| 15年勤続 | 芳澤 由幸 | 岡崎 弘寿 | 加藤 幸貴 | 箕輪 裕章 | 鈴木 章仁 | | | | |
| | 菊地 泰裕 | 君嶋 秀俊 | 小野崎勝仁 | 篠原 正文 | 青木 洋明 | | | | |
| | 原 公一 | | | | | | | | |
| 10年勤続 | 大谷 和弘 | 花塚 正彦 | 三浦 稔広 | 小日向 歩 | 谷口 裕志 | | | | |
| | 高塩 康幸 | 兼崎 藤生 | 関谷 優介 | 本木 稔 | 渡邊 和幸 | | | | |
| | 月井 健一 | 鈴木 昇市 | 渡邊 和宏 | | | | | | |

配偶者表彰

貝塚 朋子

○栃木県消防協会塩谷支部長表彰

優良分団表彰 第2分団第2部

(部長：関谷俊行 団員：13人 管轄区域：沢)

| | | | | | |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 善行章 | 町野 位夫 | 松本 泰信 | 関谷 貴行 | 渡邊 裕久 | 小峯 安博 |
| | 小川 正幸 | 小野崎善文 | 齋藤 康浩 | 篠原 正文 | 池田 泰裕 |
| 5年勤続 | 矢嶋 早苗 | 荒井 晴正 | 八木澤進治 | 渡邊 貴友 | 石川 智美 |
| | 水沼 宏明 | 坂本 巨 | 吉沢 健二 | 仲島 由晃 | 石川 智美 |
| | 大澤 英勝 | 和氣 好秀 | 根岸 洋行 | 大森 紳也 | 中村 美貴 |
| | 柿沼 博之 | 齋藤 磨孝 | 手塚 靖史 | 片野 将宏 | 吉田 優一 |
| | 津久井保貴 | 佐山 祐一 | 佐山 靖行 | | |

兄弟等消防団員表彰 柳田 章 浩

無火災分団等表彰 第5分団第3部(管轄区域：下伊佐野、上伊佐野、第一農場) 無火災5年

配偶者に対する感謝状 八木澤 樹美枝

○矢板市長表彰

| | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 20年表彰 | 江連 仁 | 笹沼 長生 | 舘脇 一哲 | 松本 泰信 | 町井 賢志 |
| | 小幡 佳広 | 小川 丈晴 | 森本 忠 | | |
| 優良団員 | 石田 知大 | 兼崎 藤生 | 石塚 淳史 | 佐宗 弘章 | 芳澤 純 |
| | 手塚 康伸 | 平井 功 | 関谷 哲志 | 渡邊 正範 | 櫻井 大輔 |
| | 大平 一将 | 手塚 智紀 | 大桶 剛 | 渡邊 貴友 | 小川 幸浩 |
| | 鈴木 一敬 | 赤羽 浩和 | 白石 盛人 | 青木 寛裕 | 星野 直人 |

機械器具整備状況優秀の部

| | |
|--------------|-------------------------------------|
| 消防ポンプ自動車の部 | 第5分団第1部(管轄区域：泉、上太田、東泉、田野原) |
| 小型動力ポンプ積載車の部 | 第3分団第2部(管轄区域：通岡、前岡、後岡、梶ヶ沢、山苗代、こぶし台) |
| 火気取締り優良主婦表彰 | 村松 孝子 小川 知子 高野千賀子 渡辺 純子 |
| | 大谷 智美 齋藤 和枝 小川フク子 阿久津知子 |

○矢板市まとい会長優秀部表彰

| | |
|--------------|---------|
| 消防ポンプ自動車の部 | 第2分団第2部 |
| 小型動力ポンプ積載車の部 | 第3分団第2部 |



市内の有事の際に、先頭に立つて市民の安全を確保するために活動する組織。それが、矢板市消防団です。消防団は、「自分たちのまを自分たちの手で守る」という理念のもと、地域住民の生命・身体財産を守るために、消防組織法第9条に基づいて、市が設置している消防機関の一つです。市が設置していると言っても常駐しているわけではなく、所属しているほとんどの皆さんが、日中はそれぞれ別の仕事をしています。

消防団の活動は、火災、風水害、がけ崩れなどの対応のほか、人命救助、警察業務への協力など多岐に渡ります。東日本大震災の際にも、市内の見回り、炊き出しの実施、給水場の設置、避難所の設置などで活躍しました。藤田団長は、「これからも市民の安全な生活を守るため、日々訓練を行い備えていきたい」と力強く話してくれました。

すっかり秋の矢板の名物になった「つつじの郷やいた花火大会」。8回目を迎えたこの花火大会も市民の力で運営されていることを存じてでしょうか。今年は、10月18日(土)に開催され、約1万発の花火を見るために、大勢の方が会場を訪れました。

となり、地域への経済効果も十分に期待できる」という思いを持って集まったことがきっかけで始まりました。開催に向けた寄付金集めから、すべての準備を、市民の力のみで行っています。今年、新たに音楽に合わせ花火を打ち上げる試みをしたとのこと。菅野実行委員長は、「来年も工夫を凝らして、皆さんに楽しんでもらえるように頑張りたい」と話してくれました。



風物詩を生み出す

～花火大会実行委員会～



矢板の市民カノート

やいたを盛り上げたい ～やもり倶楽部～



平均年齢30歳。「同年代で集まってなにか面白いことをしたい。そして矢板を盛り上げたい」という思いからスタートした「やもり倶楽部」。会の名前もそこから来ています。もともと農家の後継者などが中心となって集まっていましたが、今では、林業、建設業など多彩な人材が揃っています。今年のおんどんまつりでは、家族の写真を集めたスライドショーを行い、大好評を得ました。「これからは、それぞれの特技を活かしてイベントなどに積極的に関わっていきいし、他の団体さんともコラボしていきい」と倶楽部の皆さんは力強く話してくれました。



市民力発見・発掘 ～市民力かわら版編集委員会～



市民の視点で隠れた市民力を発見・発掘・応援するメディアとして活動している「市民力かわら版編集委員会」。平成19年の設立以来、広報紙と一緒に隔月で配布しており、この12月で44号を発行しました。市民記者の皆さんは、毎週水曜日の夜6時に集まり、記事の企画・作成、編集作業を行っています。取材を通して、作り上げた記事には、市民の立場に立った思いや、イベント開催の際の苦労などが詳しく紹介されています。「これからも多くの市民力を紹介したい」と記者の皆さんは話してくれました。



花いっぱい ～矢板花の会～



矢板の代表的な公園、長峰公園。矢板の玄関口、矢板駅。これらの場所は、いつも四季折々の花で彩られています。その中心となって活動をしているのが、「矢板花の会」の皆さんです。平成10年に設立され、「市内を花いっぱいしよう」を合言葉に、さまざまな公共施設に自費で花を植えて育てています。春の植え替え、夏の草取りなど四季を通じた活動が評価されて、表彰も多数受賞しています。先日、駅前美化に多年にわたり貢献しているとして、関東運輸局長に表彰されました。小口会長は、「これからも会の皆さんと力を合わせて市内に花を咲かせていきい」と笑顔で話してくれました。



人が集まる公園を ～川崎城跡公園再生市民会議～

「川崎城跡公園再生市民会議」は、平成19年に会を設立し、「市民力を結集し、川崎城跡に新たな光を」をスローガンに掲げ、公園の再整備計画の作成や遊歩道などの整備を行ってきました。また、すっかり夏の風物詩となった「光と音のおんどんまつり」は、5000個ものおんどんを並べ幻想的な真夏の夜を演出しています。これらの活動により、以前より多くの方が川崎城跡公園を訪れるようになりました。



がんばっぺ矢板 ～矢板市商工会青年部～

今年度の矢板市を大いに盛り上げたイベントと言えば、5月と11月に行われた軽トラ市。その中でも多くの方が集まったのがダンスでした。そして、8月のふるさとまつりでは、真夏に雪を降らせ楽しませました。それらの中心となったのが「矢板市商工会青年部」の皆さんです。矢板市に活気を取り戻そうとさまざまなことを行ってきました。藤田部長は、「がんばっぺを合言葉にこれからも頑張っていきたい」と話してくれました。



募集 市民力顕彰

市民力顕彰とは、矢板市の誇りとなる業績をあげ、市民に明るい夢と希望を与えた個人や団体に対して贈られるものです。

皆さんの周りにも「市民力」を発揮し各方面でご活躍されている方がいましたら、ぜひご推薦ください。

対象となる方／

- ・社会活動や学術・文化、スポーツなどで市の誇りとなるような功績を上げ、市民に夢や希望を与えた方
- ・長年にわたり、人々の模範となるような善行を行っている方 など

推薦方法／直接お越しになるか、電話でお問い合わせください。所定の用紙をお渡します。

問い合わせ／総合政策課 秘書政策班
☎(43)1112



今回紹介したほかにも、市民力を発揮している方々は、まだまだたくさんいらっしゃいます。あなたのご存じの市民力を市民力顕彰に応募してみませんか？ご応募お待ちしております。